

英知通信

昭和46年 5月30日

英 知 大 学

No. 3



昭和45年度 卒業証書授与式

創造的自由への 門出を祝って

学 長 岸 英 司

卒業生の皆さん、ご卒業おめでと
うございます。いまここに、ご来賓
・ご父兄・教職員一同出席の下、昭
和四十五年度英知大学及び英知短期
大学の卒業証書授与を終わりましたこ
とは、ご卒業の皆さんのみならず、
私たち英知大学、英知短期大学に属
するすべてのものの喜びでありま
す。

ふり返って考えてみますと、皆さ
んの在学されたこの四年間あるいは
二年間は、社会と大学にとって激動
の時代でありました。しかも、その
急激な変化は、いままなお続いてお
ります。私は皆さんと過したこの二
年間の中で、一昨年学園の民主化と
いうことを中心として、度々皆さん
と話し合ったことを、いままつかし
く思い出します。

これから皆さんが社会人として生
活する社会は、いまだかつてない変
化の場であるとお思いでしょうが、
私は最近ロシアの哲学者ニコライ・
ベルチャイエフの今より約五十年前
の著作「歴史の意味」を読んで居り
まして、激動の時代はなにも私たち
の生きている現代だけではないとい
うことを教えられたのであります。
ベルチャイエフは一九二三年に次
のように申しております。

「現在ロシアのみならず、ヨーロ
ッパおよび全世界が破局的な時期に
踏みこんでいるという事は、疑い
の余地がないように思われる。われ
われが大規模な歴史的破綻の時期
に生きている。歴史的発展のリズム
が根本から変化しようとしている。
(第一次)世界大戦およびそれにつ
づくロシアとヨーロッパ革命、それ

を境にして、それ以前のものは本
質的に別なものがあらわれている。
それは破局的というよりほかに様
相である。噴火山のようなくつも
の根源が歴史的基盤にあらわれた。
なにもかも動揺しだした。そしてわ
れわれは、歴史の力——歴史的なも
の——が、とくに強烈に動きはじめ
たのを感じる。」

今世紀最大の思想家の一人である
ベルチャイエフのこの預言者的洞察
は、五十年前の世界ではなく、あた
かも今日の世界について言っている
のではないかと思われるほどであり
ます。今日、世界は、その文明、科
学、技術によって長足の進歩をたけ
ながらも、例えば、公害の問題にみ
られるように、破局的であると言っ
て差支えないであります。

私は、各時代がそれぞれ実は破局
的でありながら、しかも、レーオポ
ルト・フォン・ランケの歴史の全過
程の経過において、すべての世代が
それぞれ絶対者にある関係をもっ
て、いずれも神に近いとい
う見解に、ベルチャイエフとともに
賛同せざるをえません。このことは、
今日、私たちの住む公害の世界にお
いても真実であります。

今日の世界が破局的であればある
ほど、私たちはかつてないほどに、
神に近いにはかかっていないかと、
ということであります。私たちは毎日
の生活の中で、人間性を見出してゆ
かなければなりません。私たちが
人間性を見出すということは、実は
神を見出すことなのであります。

これから皆さんは大学を出られ
て、或いは職場に、或いは家庭に、

明日の未来を切り開かれるわけであ
ります。

しかし、私たちにあって、過去と
いうものは、実は存在せず、ただ私
たちの記憶のうちにのみ存在するに
過ぎません。未来はそれが未来であ
る限り、いまだ存在せず、私たちの
期待のうちにのみ存在するに過ぎま
せん。ただこの現在——過去から未
来に移りゆく一点としての瞬間のみ
が存在します。私たちは、私たちの
仕事を単に未来の名においてなすべ
きではなく、過去も未来も一つとな
る永遠の現在においてなすべきなの
であります。

先日、ある映画で、毎日機械の前
で鉄板をおく仕事をしているアメリ
カ人の生活をみたのでありますが、
このことに象徴されているように、
新しい奴隷制度が今日の文明管理
社会の中で生まれているのでありま
す。オートメーションによる物質の
生産量の飛躍的増大は、人間の生活
を豊かにし、幸わせにする筈であり
ますが、今日ではむしろこのことが
人間から人間性を奪いつつあるとい
う事実を目をとめなければなりません。

単に物質の生産量によって、人
間生活の豊かさが計られるのではな
く、人間生活の豊かさとは、人間がど
のように物質について考え、また物
質をどのように使用するかにかかっ
ていると言わなければなりません。
皆さんは、今日のようなオートメ
ーション化された社会の中で、どの
ように生きてゆけばよいのか、どう
すれば人間と自然を滅ぼす公害を克
服できるのか、このような問題に直
面しています。私は、このことにつ

いて一つのことを皆さんに申し上げ
たいと思います。

それは、私たちが真に生きるため
に、私たちの生活の中で永遠なるも
のへの指向を見出すべきであろうと
いうことであります。人類の歴史に
おいても、此岸的なるものから彼岸
的なるものへの指向があるように、
ひとりひとりの人間の歴史におい
ても、此岸的なるものから彼岸的
なるものへの指向がなければなりま
せん。時間的なるものうちにおいて
永遠なるものを、相対的なるもの
うちにおいて絶対なるものを見出す
こと、すなわち、時間のパースペク
ティブにおいてではなく、永遠のパ
ースペクティブ、永遠の相の下に生
きることであります。今日ほど切実
にこれが必要としている時代はない
でありません。今日の私たちに、
永遠のパースペクティブの下で公害
をなくする努力が必要なのです。そ
れはこの社会での生活のうちで、霊
的価値の優位性を認めるということ
であります。時と永遠は、はなれず、
相対と絶対とは、はなれておりませ
ん。時の否定、相対の否定、単なる
現実世界の否定ではありません。時
のうちに永遠を、永遠のうちに時
を、相対のうちに絶対を、絶対のう
ちに相対を、すなわち人のうちに神
を、神のうちに人を見出す生活——
これがサピエンチア英知の教えるも
のであり、人間の創造的自由の精神
であります。人間は悪をもなしうる
自由において、神の創造の下におけ
る人間の運命の自由なる開拓者なの
であります。

ケンブリッジ大学、ダブリン大学
をはじめ、アメリカの諸大学では、

卒業式のことを the Graduation
Ceremony、および the Com-
mencement, the Commencement
exercise と言うのであります。

これは非常に意味深いと思います。
〔承知のように、Commence-
ment というのは、「始まり」という
ことであります。今日、皆さんは、
英知大学、英知短期大学での勉学を
終って、これで「終り」というので
はなく、これで「始まり」だとい
うことであります。

私は、皆さんのこれからの創造的
自由の人生への「始まり」である今
日のこの輝かしい門出であるご卒業
を祝って、皆さんの上に神の豊かな
恵みを祈りながら、私の式辞と致
します。(卒業証書授与式式辞)

卒業証書授与式

昭和四十五年度

三月十五日

昭和四十五年度の卒業証書授与式
は、本学聖堂(園田カトリック教
会)において、三月十五日(日)午
前十時より行なわれた。

はじめに試みとして、聖歌、聖書
の朗読などがあり、更に本学の壺内
弘吉先生のフルート、関知子先生の
オルガン合奏があつて、卒業生の門
出を祝った。

式次第

- 1、開式の辞
- 2、聖歌(246)一同
- 3、聖書朗読ヨハネ15、1-14
- 前奏 司会者 山川孝実
- 1、開式の辞 講師 関 知子
- 2、聖歌(246)一同
- 3、聖書朗読ヨハネ15、1-14

学生部長 松本錦治
教授 壺内弘吉

- 4、祈祷
- 5、聖歌(311)一同
- 6、卒業生指名 教務課長 傘木澄男
- 7、卒業証書授与 学長 岸 英司
- 8、賞状授与
- 9、式辞 学長 岸 英司
- 10、来賓祝辞 神戸海星女子学院大学学長代理 加藤秀次郎
- 11、讃美歌(440) 英知大コーラス
- 12、記念品贈呈 オルガン 講師 オンダラ
- 13、送別の辞 在学生代表
- 14、演奏 テレマン ミネット

レ・プレジール
フルート 教授 壺内弘吉
パイプオルガン 講師 関 知子

- 15、答辞 卒業生代表
- 16、仰げば尊し 卒業生
- 17、閉式の辞
- 18、卒業生退場
- 後奏 講師 関 知子
- なお、卒業証書を授与された者は
次の通りである。
- 文学部 八名
- 神学科 七六名
- 英文学科 四二名
- イスパニア文学科 七名
- 短大宗教科
- 式の後、食堂において学生会主催
の卒業生送別の会が催された。

英知大・英知短大同窓会発足

かねてより、卒業生の間から、同
窓会を設立しようという数多くの声
が出ておりましたが、ようやく昨年
来その準備が進められ、ここに、い
よいよ発足の運びとなりました。

実をもうしますと、この英知大学
同窓会は、一応、昭和四十二年三月
に第一回神学科卒業生の手によって
発足し、その後、第二回、第三回卒
業生と受け継いではおりましたが、
組織の点、また会則の点などで充分
に整っておりませんでしたので途中
で立消えの状態になっておりました。
しかし、卒業生総数もこの春で、
短大卒業生を含めまして、すでに五
百名に及ぶ人数にふくれ上り、この
ままでは今後ますます収拾がつかな
くなるということで、二・三の有志

と大学の協力を得まして、再発足さ
せるべく準備がなされてまいった次
第です。

すでに卒業生のみなさまには、た
びたび調査はがき、あるいは名簿等
でご協力をいただいておりますが、
去る三月七日、大学におきまし
て、みなさまがたから推薦を受けま
した各年度各科幹事のうち、九名の
出席を得まして第一回幹事会を開く
ことができました。その席におきま
して昭和四十二年度第一回英文学科
卒業の福原宏章氏を会長代行として
選出したのはじめ、後記のように
役員を選出し、また正式名簿の作成、
および第一回総会を今秋の十一月三
日文化の日、大学祭への参加の意味
も含めて大学にて開催すること等を

取決め、目下、役員の手によりまして総会および名簿発行の準備が進められております。やがて、会の運営がスムーズに流れるようになりまして、大学内に事務局をもうけ、会員相互の連絡、向上に充分寄与していけるようにしていきたいと考えておりますが、今しばらくは、役員、ならびに幹事のかたがたを中心にしてまづ軌道に乗せることに主眼をおいてやっつけていきたいと思っております。

もとより同窓会というものは、会則の中にもうたわれておりますように、会員相互のつながりと、母校の発展に寄与するというのがその主目的でありますから、すべての会員の積極的な参画があつてはじめてその機能を發揮していくものであることはいうまでもありません。殊に発足当初は、みなさまの協力が必要で、すので常に幹事のかたがたと密接に連絡をおとりくださるよう望みます。

現在今秋までにみなさまのお手元に届くよう、名簿の作成を急いでおりますが、過日お配りしましたはがきをまだお出しただいてないかたは至急ご返送くださいますようお願いいたします。またその後住所変更移動のありましたかたがたもその旨お知らせください。

なお、第一回、第二回の大学の卒業生のかたがたは、卒業時に同窓会費として、一人千円づつ納めていただいておりますが、他のかたがたにつきましては未納になつております。会の運営上どうしてもその資金が必要になつてまいりましたので、一律一人千円を終身会費としてお納めくださいますようお願いいたします。

す。納入方法等は、次号の英知通信を借りましてお知らせいたします。

まだまだ不備な点が多く目につきませんが、ご意見、ご要望等を本部宛にお申越しくださいますようお願いいたします。

会則(仮議決)および代行幹事・役員は以下のとおりです。

では、十一月三日、会員が一同に集える日をお互い今から楽しみに待ちたく思います。(植松記)

英知大学同窓会会則

第一章 総則

第一条 本会は、英知大学同窓会と称する。

第二条 本会は、母校の発展と会員相互の親睦と向上をはかることを目的とする。

第三条 本会は、本部事務所を英知大学内におく。

第四条 本会は、英知大学卒業者を正会員とし、母校現職員および旧職員を特別会員とする。

2 英知短期大学の卒業者は、本会の正会員とする。

3 本会に特に功労のあつたもので役員会において承認されたものを名誉会員とすることができる。

第五条 本会は、次の事業を行なう。

- 1 会誌、名簿の発行
- 2 親睦会
- 3 母校の事業に対する協力と援助
- 4 その他役員会において必要と認める事業

第二章 役員

第六条 本会に次の役員をおく。

- 1 会長 一人
- 2 副会長 二人
- 3 幹事
- 4 常任幹事
- 5 会計 一人
- 6 書記 二人

第七條 役員は、次の各号に定めるところによつて選任する。

- 1 会長は、幹事および常任幹事の中から互選による。
- 2 副会長は、幹事の中から互選による。

3 幹事は、卒業年度ごとに、各学科から若干名を選任する。

4 常任幹事は、幹事の中から互選による。

5 会計は、幹事の中から互選による。

6 書記は、幹事の中から互選による。

第八條 役員は、二年とする。ただし、重任を妨げない。

第九條 役員は、総会の承認を必要とする。

第十條 本会に名誉会長をおき、英知大学長をもつてこれにあてる。

第三章 総会

第十一條 総会は、定期総会および臨時総会とする。

2 定期総会は、毎年一回開催するのを原則とする。

3 臨時総会は、次の場合に開催する。

- 1 役員が必要と認められた場合
- 2 会員総数の五分の一以上の連署をもつて要求があつた場合
- 4 総会は、会員総数の五分の一以上の出席で成立し、出席会員の過半数で議事を決する。

5 出席者数が定数に満たない場合は、出席者数の過半数をもつて仮議決とし、三十日以内に、会員総数の十分の一以上の異議がない場合は、これを本議決とする。

第四章 役員会

第十二條 役員会は、会長が召集する。

第十三條 役員会は、次の事項を審議する。

- 1 予算および決算に関する事項
- 2 総会および親睦会に関する事項

3 会則の制定・改廃に関する事項

4 その他必要と認められる事項

第五章 会計

第十四條 本会の会費は、三千円とし、入学時に納める。

第六章 補則

第十五條 この会則の改正は、総会の承認を必要とする。

第十六條 この会則の細則は、役員会において別に定める。

同窓会役員名簿

幹事	氏名	卒業年度
	宮崎 康江	S 38年度 宗教1
	後藤ミエ子	S 39 " "
	中江 信子	S 40 " "
		" " 3

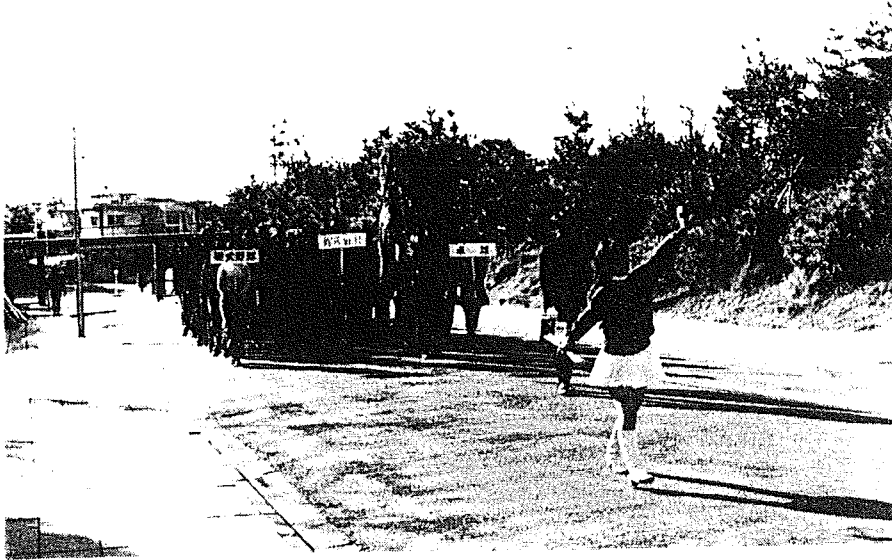
小池 順子	S 41年度	宗教 4
篠崎 興子	S 42 " "	" "
菱田 輝克	S 43 " "	" "
藤本 幹子	S 44 " "	" "
中野ヤス子	S 45 " "	" "
鈴木 頼彦	S 41 " "	神学 1
安水 決彦	S 42 " "	" "
沢田 円	S 43 " "	" "
吉井 幸子	S 44 " "	" "
田中 洋子	S 45 " "	" "
福原 宏章	S 42 " "	英文 1
中山 清	S 43 " "	" "
中村 順市	S 44 " "	" "
稲田 新平	S 45 " "	" "
家村 直温	S 46 " "	" "
田中 栄一	S 47 " "	" "
宮内 優子	S 48 " "	" "
生駒 幸雄	S 49 " "	" "
朝倉 真弓	S 50 " "	" "
伊藤 久司	S 51 " "	" "
植松 誠明	S 52 " "	西文 1
加藤 康雄	S 53 " "	" "
中島 和彦	S 54 " "	" "
片山 道夫	S 55 " "	" "
南 治彦	S 56 " "	" "
南 治彦	S 45 " "	" "
南 治彦	S 46 " "	" "
南 治彦	S 47 " "	" "
南 治彦	S 48 " "	" "
南 治彦	S 49 " "	" "
南 治彦	S 50 " "	" "
南 治彦	S 51 " "	" "
南 治彦	S 52 " "	" "
南 治彦	S 53 " "	" "
南 治彦	S 54 " "	" "
南 治彦	S 55 " "	" "
南 治彦	S 56 " "	" "

常任幹事 植松 誠明 S 43 " " 1
 中村 順市 S 44 " " 3
 吉井 幸子 " " " " 4
 ただし、役員は総会の承認までは代行とする S 46年3月25日

英知 — 南山戦

昨年、十一月二十三日、英知大学体育系クラブは学長代理としての壺内弘吉先生、体育の花野俊昭先生と共に南山大学に遠征し、定期戦を行

つて両大学の交歓の時をもった。写真は校旗をもって入場する英知大学チーム。



就職状況について

昭和四十六年三月本学卒業生の就職状況は次のとおりである。

英文学科では、就職希望者五十五名(うち女子二十七名)の就職率は八十四パーセントで、その主な就職先は、新興産業、森田ポンプ、機壳新聞大阪本社、北越工業、機ダスキ、山口化成、機日食、機第一銀行、機キティランド、機新大阪ホテル、松下電器産業、緑書房、機ニチイ、等である。

イスパニア文学科では、就職希望者三名(うち女子九名)の就職率は九十、三パーセントであった。

その主な就職先は、入国管理事務所、上島コーヒ本社、機マンテン、山口化成、ニチメン衣料、三菱商事、機鴻池組、機ホテル阪神高千穂交易、キューバ大使館、ヤングエース、機八芳園、等である。(職業指導課)

図書館だより

昭和四十五年度の増加図書冊数、利用者数、利用図書冊数は別表のとおりである。購入図書の全部は、昭和四十五年度より新設された私学振興財団による私立大学等経常費補助金の対象となったものである。

また、私立大学研究設備整備補助金による研究者対象の図書購入については、

Augustinus, Opera omnia, 12 vols. 購入価格一四〇,〇〇〇円
 433 Révue d'histoire littéraire de la France, 24 vols. 購入価格三〇〇,〇〇〇円をそれぞれ購入した。

昭和45年度増加蔵書冊数

人文学科	521	694	イ	ス	パ	ア	和	6	18	小	計	和	212	1,203
文	173		語	学	ニ	係	洋	12		計		洋	991	
社	96	117	小	小	計	和	和	120	170	保	健	和	42	43
会	21		計	計	和	洋	洋	50		休	体	洋	1	
科	46	53	神	神	和	和	和	83	157	そ	の	他	194	322
自	7		専	門	和	和	和	74		総	計	和	128	
然	663	864	英	文	和	和	和	68	451	計	和	洋	1,231	2,602
小	201		専	文	和	和	和	383		和	洋	和	1,371	
計			イ	学	和	和	和	0	194	和	洋	和		
英	89	108	文	科	和	和	和	194	401	和	洋	和		
関	19	44	フ	学	和	和	和	61		和	洋	和		
ラ	25		ラ	文	和	和	和	340		和	洋	和		
フ	19		学	学	和	和	和			和	洋	和		
語			文	科	和	和	和			和	洋	和		

昭和45年度入館者数調べ

昭和45年4月~46年3月	入館者数	14,060人
	開館日数	270日
	一日平均	52.1

利用図書冊数

昭和45年4月~46年3月	館外帯出	820
	館内閲覧	3,825
	計	4,645

編集後記

卒業生、在学生及びご父兄の皆さん、ここに「英知通信」第三号をお送りします。この号は昭和四十五年度の卒業の皆さんを記念するものとなりました。

昭和四十五年度は、英知大学でも学生の創意に基づく活動がやや不活発でした。しかし秋の大学祭も無事終って伝統を守ったことになりました。

これにつづけて第四号を発行しますが、この号は昭和四十六年度入学された皆さんを記念するものとして、いろいろなニュースをおとどけます。ご期待下さい。(岸)



英知通信

昭和四十六年五月三十日発行
 編集者 英知大学学長室

兵庫県尼崎市長若王寺由田
 電話(06)四九一―五〇八三
 〒六六一